# 水道サポーター会議（意見交換会）まとめ

**【日時】** 令和４年 12 月６日（火）10：00～11：20
**【会場】** 仙台市水道局本庁舎　２階水運用スペース
**【参加者数】** 水道サポーター16 名

## 1　水道危機管理室長より説明

●仙台市水道局の災害対策
●東日本大震災以降整備してきた「災害時給水栓」の概要
●意見交換会の目的
・災害時給水栓についてお客さまの認知度は 23%（※）
（※平成 30 年度　仙台市水道局「お客さま意識調査結果」より）
・災害時の円滑な給水の実現のためには、更なる認知度向上を目指す必要がある。
・これまでの講座、応急給水体験の感想等も踏まえて、今後の広報に向けたご意見をいただきたい。

## 2　意見交換

●水道サポーター5~6 名+水道局職員 1 名の３グループに分かれて意見交換を実施。

## 3　意見の全体共有

### A グループ

●学校に災害時給水栓があることを児童・生徒に知ってもらえるよう、学校に対する働きかけを行うと良いのでは。学校内で継続的に周知してもらうことが大事だと思う。
●学校内のどこにあるか、看板などを使って周知すると良いと思う。
●学校で児童が災害時給水栓の開設体験をする機会が設けられると、より効果的だと思う。
●子供を通して親への周知も図れると思う。
●学校の避難計画や町内会のマニュアルなどに、災害時給水栓のことが盛り込まれると良い。

## B グループ

●広報の際は、「指定避難所」より「仙台市立小・中・高等学校」と表現した方が伝わりやすい。

●学校内のどこに災害時給水栓があるのか確認できるよう、看板などを設置してはどうか。

●広報媒体について、既存の広報は意識的に見た人にしか伝わらない。みんなが無意識に目にするようなものに掲載できると良い。

●災害発生時の広報について、断水地区と併せて、開設した災害時給水栓の情報も掲載すると良い。

●水道局では地域の防災訓練で説明等を行っているが、コロナ禍の影響もあり訓練自体が少なくなっている。町内会の役員会等に参加して説明するなどの方法も有効だと思う。

●断水発生時に、学生等に手伝ってもらう、企業の協力を得る等、地域で高齢者等を助ける仕組みが必要だと思う。

## C グループ

●学校内のどこにあるか分かるよう、ウォッターくんを活用した看板等を設置してはどうか。

●最寄りの災害時給水栓の位置を知ってもらうために、学校の防災教育等での周知や、運動会等の学校行事で活用すると効果的だと思う。

●町内会の回覧で、災害時給水栓の位置についての資料を回覧すると、地域への周知につながると思う。

●パンフレット等の紙媒体での発信だけでは実感につながりづらいので、体験の機会を増やすと良いと思う。地域の防災訓練を活発に行い、その中で災害時給水栓の活用機会も増やせると良いと思う。

●地域活動にあまり参加しない若者への広報も必要。SNS 等、若者に伝わりやすい広報も検討する必要があると思う。

●開設後の広報放送にドローンを活用できれば、従来の車での広報に比べ、マンパワーやガソリンの効率化につながると思う。

●東日本大震災では自宅が断水となったが、十分な量の飲料水をローリングストックしていたので、応急給水を受けなくても問題なかった。災害時給水栓の認知度向上も必要だが、水の備蓄啓発も引き続き行っていく必要があると思う。

## 4 水道局総務部長あいさつ

●皆さんの意見を伺って、今後の課題として大きく３点あると認識した。

● １点目に、広報ターゲットの明確化が必要。東日本大震災の時は、中学生等が地域の高齢者宅に水を運ぶなど活躍してくれた例があった。若年層への広報が特に課題だと思う。

●２ 点目に、地域・行政・学校の連携強化が必要。市役所内部では、災害対策の司令塔は危機管理局、学校は教育委員会、町内会は市民局などと組織が分かれているが、効果的な災害対策のためには、それぞれの連携強化が不可欠。

●３ 点目に、地域のつながりが非常に重要。災害が発生した時に力を発揮するのは、地域での顔の見える関係性。例えば、町内会活動の活性化に向けて、市長部局でも様々取り組んでいるところだが、水道局も地域の防災訓練での災害時給水栓の活用を通じて、その一助となりたいと思う。　　本日は様々な意見をありがとうございました。